

レオンハルト・オイラーやベンジャミン・フランクリンのマジックスクエアのことは、前に書きましたが、ついでにもう一人、ドイツのアルブレヒト・デューラー - の銅版画に描かれたマジックスクエアも「エ～！」ですので、紹介してみたいと思います。

これも、出典はライフ サイエンス ライブラリー コンパクト版 「数の話」 初版 S42 年の挿絵にチラッと紹介されているものです。

ドイツ生れの画家・版画家・数学家：アルブレヒト・デューラー（Albrecht Dürer, 1471～1528）は、1514 年に銅版画「メランコリア」 という作品を残していますが、その背景に何気なく描かれた壁飾りのようなスクエア（方形）にも驚かされます。

このスクエアは、雑誌などで見たような気がしますが、この版画からの引用だとは全く知りませんでした。

右の版画を見てください。

右上に何やら四角い升目が見えます。中には数字のようなものが見えます。下に拡大してみました。

16	3	2	13
5	10	11	8
9	6	7	12
4	15	14	1

このスクエアは、

- ・ 縦、横、斜め 全て 34 になります。

この先は、フランクリンのスクエアに似ています。

（但し、フランクリンの方が後世の人です。）

- ・ 四隅の合計も 34 になる。 $16 + 4 + 1 + 13 = 34$
- ・ 中央の合計も 34 になる。 $10 + 6 + 7 + 11 = 34$

更に、

- ・ どの 4 つの方形の合計も 34 になる。 例えば、 $16 + 5 + 3 + 10 = 34$ $5 + 10 + 9 + 6 = 34$
- ・ 中央の方形を挟んだ 4 つの合計も 34 になる。 $3 + 15 + 2 + 14 = 34$ $5 + 8 + 9 + 12 = 34$

とよく似ています。

ところが、デューラーがここにスクエアを描いたのには、別の意味が込められていたのです。なんとこの作品の発表された年、1514 をスクエアの中に何気なく仕組んでいたのです。

この数字の並びは単純な並びになっています。簡単に覚えられますので、1 から 16 まで目で追ってみてください。数字の不思議さに驚かされます。



Wikipedia より引用：著作権の保護期間が満了しているためパブリックドメインの状態にある由。